

会議記録(1)

会議名称	北本市次世代育成支援対策地域協議会（第2回）
開会及び閉会日時	平成23年11月29日（火） 午前10時～午前11時
開催場所	文化センター 第1研修室
議長氏名	田澤あけみ
出席委員(者)氏名	田澤あけみ、紅谷肇、小林希、田口景子、佐藤洗、 荒樋美智子、柳瀬秀夫、木村嶺子、米田久仁夫、 有田めぐみ、蜂谷学、
欠席委員(者)氏名	前田ひろ子、新井利民、日向野由里、松井和子
説明者の職氏名	部長 谷澤 暢 課長 加藤啓一 主幹 小暮秀行 主査 南 豊
事務局職員職氏名	部長 谷澤 暢 課長 加藤啓一 主幹 小暮秀行 主査 南 豊
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 北本市次世代育成支援行動計画「平成22年度事業進捗状況報告書」 について (2) その他 3 閉会
配布資料	北本市次世代育成支援行動計画「平成22年度事業進捗状況報告書」（資料No.1） 平成22年度事業進捗状況報告書について（資料No.2） （仮称）こどもプラザ整備基本計画

会議記録(2)

発言者	発言内容・決定事項
事務局	1 開会
会長	【田澤会長あいさつ】
事務局	議事進行につきましては、協議会設置要綱に基づき、会長を議長としてお願いしたいと思います。
事務局	2 議題
議長	では、議事次第に従って議事を進めさせていただきます。議題の(1)「北本市次世代育成支援行動計画『平成 22 年度事業進捗状況報告書』について」、事務局の説明を求めます。
事務局	【北本市次世代育成支援行動計画「平成 22 年度事業進捗状況報告書」について説明】
議長	説明が終わりましたので、質問のある方の発言を求めます。
委員	報告書 7 頁の「平成 26 年度目標事業量」のところですが、これからは少子化時代で児童人口も減ると言われています。平成 26 年度の目標事業量を、現在の実績人数より増やして設定されていますが、どういうことなのか理由を教えてください。
事務局	<p>「平成 26 年度目標事業量」というのは、後期計画を策定する際に市内の 2000 世帯を対象とした「ニーズ調査」を行い、調査によって得られた市民の意向割合に将来の推計児童人口を掛け合わせた「将来ニーズ量」を参考にしています。</p> <p>「通常保育事業」については、800 人台後半の数値が「将来ニーズ量」として推計されました。将来ニーズ量と、現在予定されている保育所の定員のキャパシティを勘案して「目標事業量」が設定されています。</p> <p>この方法は「放課後児童健全育成事業」についても同様で、目標事業量を設定するにあたり将来のニーズ量を推計したところ、学童保育室を利用したいという人が 495 人（平成 26 年度推計）という数値が出た訳ですが、実際には 275 人（平成 22 年度実績）</p>

委員	<p>しか利用している人がいません。ニーズ調査によって、「入りたい」と回答した人と、実際に利用料を支払って「入れている」人とかい離がある状況です。</p> <p>目標事業量は、ニーズ調査を参考に設定しています。そのため、報告書の「目標達成度」のパーセンテージが低くなりがちなものもあります。しかし、目標達成度が低いから問題があるのかというと、必ずしもそうとも言いきれません。今後は、何らかの別の指標でとらえることも必要であるかと思っています。</p> <p>私は「幼児問題審議会」の委員にもなっていますが、審議会では公立保育所のあり方を話し合っていて「統廃合」という意見も出ています。</p> <p>市民アンケートによる「ニーズ調査」では、沢山の人が利用したいという結果が出ていたのに、幼児問題審議会では、縮小するという意見があるので、矛盾しているのではないかと思います。</p> <p>目標事業量として設定している「876人」というのは、公立保育所の定員のことでしょうか。民間も含めてですか。</p>
事務局	<p>民間も含めてです。公立・民間併せた人数です。</p>
委員	<p>「ニーズ調査」はいつ行ったのですか。</p>
事務局	<p>平成21年1月です。</p>
議長	<p>その他に何か意見や質問はありますか。</p>
委員	<p>質問が2点あります。</p> <p>まず報告書の10頁。「成人健康相談」の実施状況ですが、「10回実施 11人」というのは参加者が少ないのではないかと思います。PR等の働きかけが必要ではないでしょうか。</p> <p>もう一つ18頁。「中学校における学校選択制の実施」があります。「中学校選択制」については、いろいろ問題があるように聞いています。個人的には、中学校選択制を行動計画書に掲載するのは、いかがなものかと思っていますが、市としての考えを聞きたいです。</p>
事務局	<p>1つ目ですが、個別事業の周知の方法としては、広報もしくはホームページによる方法が考えられるかと思っています。この事業実施状況だけみると、確かに委員から指摘のとおり参加人数が少ないという状況があるかもしれません。どのように啓発しているの</p>

	<p>か、保健福祉部として実態を確認いたしまして、担当課にあらためて当協議会で意見があったことを申し伝えたいと思います。</p> <p>2つ目の「中学校選択制」は、本市として大きな取組です。確かに、中学校が4校ある中で、学校によっては生徒の人数に偏りがあり、問題ではないかという意見があるというのは聞いています。</p> <p>しかし、市の大きな取組として中学校選択制が位置づけられており、実際に制度が導入されている状況を踏まえまして、本計画書では事業の一つとして掲載しております。ご指摘のあったことについては、先ほどと同じように、教育委員会に協議会から意見があったことをあらためて申し伝えさせていただきます。</p>
委員	<p>報告書の7頁。病児・病後児保育事業の「体調不良児対応型」について教えてください。この事業を行っている1施設というのは、「療育センター」のことですか。</p>
事務局	<p>この事業を行っているのは、「中丸保育園」です。</p>
委員	<p>報告書の60頁。「地域子育て支援拠点 市民アンケート調査」について質問があります。今回実施したアンケート期間は、一か月と短く、有効回答数が137人と少なかったのではないのでしょうか。アンケート結果については、どのように反映させているのですか。</p>
事務局	<p>まず、このアンケート調査の概要ですが、市内にある4か所の地域子育て支援拠点にアンケート用紙を50枚ずつ配布し、一か月の間でアンケート調査を実施しました。同じ人が何枚もアンケートに答えることの無いように、配慮してもらっています。結果、137人の市民からアンケートの回答をいただきました。</p> <p>この調査結果についてですが、本市では「地域子育て支援拠点」連絡調整会議を一か月に一回行っていますが、その会議の際に、この結果を各拠点担当者に報告しました。アンケート結果を伝えて、拠点運営の参考にしてもらっています。</p>
委員	<p>このようなアンケートをやる場合、有効回答数だけでなく、何部アンケートを配布したのかも書いた方が良いと思います。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
委員	<p>参考意見として聞いてもらいたいのですが、今後、調査方法や</p>

事務局	<p>調査対象（児童年齢）を変えたり、違う事業に対してもアンケート調査をしてもよいのではないのでしょうか。</p> <p>今後の参考にさせていただきます。</p>
議長	<p>この議題について、他に意見はありますか。</p> <p>なければ、議題（2）「その他」について、事務局からの説明を求めます。</p>
事務局	<p>【（仮称）こどもプラザ整備基本計画について説明】</p>
議長	<p>質問がある委員の発言を求めます。</p>
委員	<p>第一回の協議会の時も発言させていただきましたが、出生率が下がっている中、この「平成 26 年度目標事業量」は、どんなものかと思います。</p> <p>出生率がこの 5 年間の間で極端に下がっています。市内の新生児数も 600 人台から 500 人台に 90 人位減っています。そして、これからもますます減っていくという傾向が強いです。そのような中、公立 4 か所、民間 6 か所という保育園は多いのではないのでしょうか。</p> <p>政府の「子ども・子育て新システム」では、幼稚園と保育園を一元化する方向です。幼稚園と保育園が同じ土壌の中になるので、大変厳しい状況です。</p> <p>現在、北本の幼稚園は、著しい定員減です。人数が 100 人を割り込んで 70～80 人の幼稚園が 5 園もあります。存続は不可能ではないかと心配しています。市内の新生児数が 400 人台になった時、9 か所の幼稚園、10 か所の保育園でこの数字（400 人台）を分けると、一園あたり 20 人台という大変な数字になってしまいます。</p> <p>公立の保育所 4 か所は多すぎです。公立保育所は、中核保育所 1 つで十分ではないかと要望を出しています。このままでいくと民間を阻害し、民間の保育園が存続できなくなってしまいます。そのような状況をご承知いただきたいです。このような状況を踏まえて公立保育所の数のあり方を考えてほしいです。</p> <p>あともう一点。市内には「認定こども園」が 3 か所あります。認定こども園では、幼稚園・保育園・子育て支援の 3 つの機能が義務付けられていますが、「子育て支援」については予算がありません。事務局の説明では、今後、市内の地域子育て支援拠点を二か所増やすという計画のようですが、新たな物をつくるより、既</p>

	<p>存の民間施設を活用するように考え直した方が良いのではないのでしょうか。</p>
議長	<p>今の発言は、議題1に対する意見ということでよろしいですか。国の動向もありますが、事務局は参考にしてください。</p> <p>他に議題2について質問や意見はありますか。</p>
委員	<p>(仮称) こどもプラザ建設について、伺います。</p> <p>(仮称) こどもプラザの建設は、庁舎と同時進行で行うのですか。また、建設予算はどれくらいですか。</p>
事務局	<p>一点目ですが、物理的に現状の庁舎の場所を使って(仮称) こどもプラザを整備しますので、庁舎の進捗との整合性を図りながら進めていきます。</p> <p>二点目の予算については、お手元の資料10頁に記載してありますが、本体工事費として概ね3億円を見込んでいます。</p>
委員	<p>報告書7頁。病後児保育事業ですが、例えば、園児の熱が出た時など、体調不良児の世話をするのは、どこの保育園でもやっています。なぜ、中丸保育園の一か所なのですか。</p>
事務局	<p>子どもの具合が悪くなったときには、どこの保育園でも保護者に連絡をしたり、児童の世話をさせていただいていると思います。ここに記載してある病後児保育事業(体調不良児対応型)とは、園内に看護師を配置するなど、必要な体制を整備して、制度として実施している補助事業のことです。</p>
議長	<p>他にありますか。</p>
委員	<p>体調不良児対応型とは、どういう制度なのか、後で良いので説明資料をいただきたいです。</p>
事務局	<p>承知しました。</p>
委員	<p>中丸保育園一か所ではなく、どこの保育園でもその事業をやるようにしてほしいです。</p>
議長	<p>それは現在の最低基準の問題もあると思うので、今後の要望ということでよいですか。</p>

委員	はい。要望ということで。
事務局	要望ということで承りました。
委員	<p>私は、「幼児問題審議会」の委員もやっていますが、市内に「認定こども園」「幼稚園」「保育園」があり、児童が減っている状況がある中、公立保育所は民間より二倍以上経費がかかっているわけですから、公立に必要性があるのかよく検討してください。</p> <p>公立は、中核保育所一か所でいいのではないかと思っています。民間保育園に優先的に児童を入れてください。民間保育園の定員が埋まってから、公立保育所に入れてください。</p>
議長	<p>発言は、この議題とは違ってくるので、事務局が参考までに伺うということよろしいでしょうか。</p> <p>国全体として、就学前の子どもたちを取り巻く環境が大きく動いています。国でも新しい省庁をつくる動きもあります。また政権が変わる中で、子育てに関する政策も変更されて、現場としても今後が見えづらいところもあるかと思えます。市としても大変なところだと思えますが、(委員の提案を)それぞれの部署で議論してもらいたいと思えます。</p> <p>議題について、他に質問などありますか。</p> <p>無いようでしたら、本日の議題については、以上で終わりましたので、議事の進行を事務局に戻します。</p>
事務局	<p>6 閉会</p> <p>それでは、お手元に配布した報告書(案)については、おつて市のHPに公開させていただきたいと思えます。</p> <p>田澤会長ありがとうございました。また委員の皆様もありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、平成23年度次世代育成支援対策地域協議会の第2回会議を閉会いたします。</p>

議事のとん末・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

2011年12月12日 会長

田澤 あけみ